



2013 年 6 月

報道関係各位

NPO 法人富士山測候所を活用する会
(広報委員長：東京理科大学准教授 三浦 和彦)

富士山の山頂で今年も夏期観測を実施 **～PM2.5 の越境汚染の監視、大気電気現象・超高層大気の観測など全部で 15 件～**

NPO 法人富士山測候所を活用する会では、7 月 16 日（火）～8 月 30 日（金）までの約 1 カ月半の間、気象庁から借り受けた富士山測候所を使い、公募により選ばれた 15 件の夏期研究観測を行います（詳細別紙）。

今夏の研究プロジェクトは、中国の深刻な大気汚染発生により日本に飛来することが懸念される PM2.5 に焦点をあてた、富士山頂における PM2.5 の越境汚染の監視に関する東京農工大、滋賀県立大、東京理科大、早稲田大の 4 プロジェクトによる調査や、地上での観測が困難なスプライトをはじめとする高高度大気中における放電現象や大気光モニターによる大気重力波が超高層大気に与える影響を調査する「富士山頂における大気電気現象および超高層大気の観測」も行います。さらに、富士山頂で貯蔵した農畜産物の品質変化の調査や、富士山頂での歩行バランスに与える影響の調査など、幅広い活動を行います。

当会は、富士山測候所を、平成 19 年から平成 24 年までの 6 年間、大気化学、宇宙線科学、永久凍土、高所医学など富士山頂でなければできない数々の研究や教育に有効に活用し、それぞれの成果を上げてきました。この間に富士山測候所山頂庁舎を利用した研究者・学生等の数は延べ 2,200 人を越えています。平成 24 年 12 月には東京管区气象台の第 3 期貸付公募に応募し、過去 6 年間の実績が評価され、引き続き平成 30 年まで 5 年間の借り受けが決定しています。しかしながら、第 3 期貸付契約の初年度にあたる今夏は、資金難のため開所期間を例年より約 1 週間短縮したほか、ボランティアの活用など、あらゆる面で経費節減努力をして研究活動を継続させることにしています。

なお、先の通常総会において第 3 期借り受け期間に対応する向う 5 年間の「中期計画」を決定しました。中期計画では「多分野の専門家による学際的な連携アプローチで成果・ノウハウを共有化し、新しいタイプの開かれた研究・教育の拠点」とすることを目指しています。

2013 年度富士山測候所における夏期観測研究テーマ等の概要は次頁のとおりです。

【2013年度富士山測候所における夏期観測の概要】

■期間：7月16日（火）～8月30日（金）

■参加グループ：15件（研究12、活用3）

大気化学6、大気電気・放射線2、永久凍土1、食品科学1、
高所医学2、教育2、通信1

<今年度 富士山測候所 プロジェクト一覧>

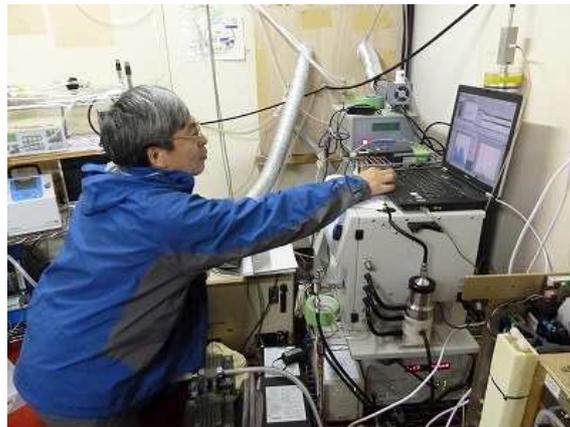
(1) 研究計画

研究テーマ	代表者（所属）	分野
富士山頂における一酸化炭素およびオゾンの夏季の長期測定	加藤 俊吾 （首都大学東京）	大気化学
富士山頂における大気中水銀の連続観測と同期する大気汚染物質の観測及び湿性降水物中の水銀濃度の把握	永淵 修 （滋賀県立大学）	大気化学
自由対流圏内を運ばれるエアロゾル金属成分の富士山頂における動態観測	畠山 史郎 （東京農工大学）	大気化学
富士山頂における長期二酸化炭素濃度観測	向井 人史 （国立環境研究所）	大気化学
富士山体を利用したエアロゾルの気候影響の研究ーラドン・イオンで 気候変化を探るー	三浦 和彦 （東京理科大学）	大気化学
富士山体を利用した自由対流圏高度におけるエアロゾルー雲ー降水相互作用の観測	大河内 博 （早稲田大学）	大気化学
宇宙線被ばく線量評価の信頼性向上を目的とした富士山頂での放射線モニタリング	矢島 千秋 （放射線医学総合研究所）	放射線
富士山山頂における大気電気現象および超高層大気の観測	鴨川 仁 （東京学芸大学）	大気電気
富士山の永久凍土研究：研究の第二段階	池田 敦 （筑波大学）	永久凍土
富士山頂で貯蔵した農畜産物の品質変化	稲津 成孝 （ふじのくに地域政策研究所）	食品科学
富士山頂短期滞在が心臓および動脈系血行動態に及ぼす影響に関する研究	浅野 勝己 （つくば大学）	高所医学
富士山頂において歩行バランスに与える影響	井出 里香 （東京都立大塚病院）	高所医学

(2) 活用計画

活用テーマ	代表者（所属）	分野
富士山頂実験室	佐藤 元 （黄金雲プロジェクト）	教育
「理科準備室へようこそ」～ 富士山頂での教材開発 II ～	古田 豊 （立教新座中学高校）	教育
富士山旧測候所を利用した通信の可能性について	吉田 智将 （KDDI）	通信

【昨年度の観測の様子】



【NPO 法人富士山測候所を活用する会】

- ・組織名 : 特定非営利活動法人 (NPO 法人) 富士山測候所を活用する会
- ・設立年月日 : 平成 17 年 (2005 年) 11 月 27 日
- ・スローガン : よみがえれ富士山測候所…ふたたび誇れる研究・教育の拠点に
- ・組織形態 : 富士山測候所の活用を希望する様々な専門家、市民、NPO、企業、行政が協働するネットワーク型の NPO
- ・活動目的 : 富士山測候所を学術研究・教育等の分野において、広く国民に開かれた施設として有効活用することを目的とします。
- ・主たる事務所 : 東京都千代田区
- ・従たる事務所 : 静岡県三島市
- ・所轄庁 : 東京都
- ・会員数 : 200 人

～ 本件に関するお問い合わせ先～

■東京理科大学 准教授 / 総合研究機構 山岳大気研究部門長
三浦 和彦

Tel : 03-5228-8215 Fax : 03-5261-1023

Email : miura@rs.kagu.tus.ac.jp

■NPO 法人 富士山測候所を活用する会 事務局

Tel : 03-3265-8287 E-mail : npofuji3776@yahoo.co.jp